

重点分野 持続可能な地域の創り手の育成・ESD※の推進

①

～未来の郡山に必要なのは「声」と「手」～

郡山がこれからも住みやすく、魅力あるまちとなるためには、地域の活力と持続可能な発展を支える人づくりが重要です。子どもたちや若者の「声」や「手」を大切にすまをを目指します。 ※ESD…持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development)のこと

子どもたちや若者の「声」と「手」で次のまちづくりを！ ユースカウンシル※がスタート！

次代を担う子どもたち自身が、「自分事」としてまちづくりを考え、自由に意見を述べられる機会が重要になっています。

子どもたち自身が未来の「地域」や「学校」を創っていくための課題や取り組みを一緒に考え、意見を発表するユースカウンシルを新たにスタートし、子どもたちの「声」を実現するための伴奏支援を行います。

※日本語では「わかもの会議」と言われ、地域に住む若者たちの声を集め、地域づくりや若者のエンパワメントを目的とした協議体のこと。



2024年7月に実施した郡山ユースワークショップ
中学生と大学生メンターによる6グループが提言を発表し、その一部が新たな計画にも反映されています。

参加した中学生の「こうしたい!」という思いが強く伝わってくるワークショップで、刺激を受けました。メンターとしては、話のスケールが大きくなった時、中学生が自分事として捉えることができるよう問いかけをしてサポートしました。

こうした機会が継続するのはとてもうれしいです。「自分の声を聞いてもらった」という体験が、何事も自分事として考えるきっかけになると思います。みんなで未来の郡山を考えていけたらいいですね。

大学生メンター(福島大学) 大内 暢女さん



参加者 Interview

同世代の子たちと一緒に同じ課題について考えるととても貴重な経験でした。計画に意見が反映されるのは、私たちの生の声が届いたようでとてもうれしかったです。

私たちにとって学校は、一番過ごす時間の長い場所。学校をみんなが大好きで、楽しいと感じられることが大切だと思います。

これからもこうした機会があれば、過ごしやすい学校やまちを一緒につくっていけるんじゃないかなと思います。

参加生徒(郡山第五中学校) 茂木 明日香さん



地域全体で「声」を紡ぎ、「手」を取り合う あらゆる世代の“学び”を支える

地域のつながりが希薄化しつつある中で、地域の「学び」の場を充実させ、「地域ぐるみのまちづくり」を進めることがこれまで以上に重要です。

今注目されているのが、地域の人材や団体のネットワークづくりを行い、地域の「学び」を支える地域コーディネーター(※)。この方々を基点に、学校や公民館が地域コミュニティの核となり、あらゆる世代が「学び」に触れることができる環境づくりを進めます。

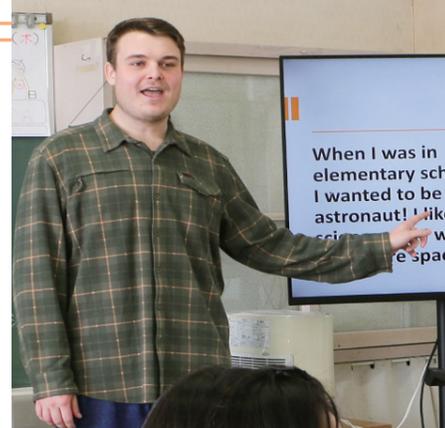
※学校が必要とする支援に合った地域の人材を探し、学校に派遣するなど、学校や行政などとの地域のかけ橋となる役割を担う人のこと。

地域コーディネーターは、中学校区に最低1人配置され、私は湖南地区で活動しています。相談を受けた時に大切にしているのは、個人の立場に立って言葉を整理し、「学校が」「行政が」といった大きな主語で捉えないことです。どこまでいっても困りごとは個人と個人の助け合い。そのことを忘れないようにしています。

まだまだ地域コーディネーターの認知度は低いように感じます。養成講座などを開催してこの役割を学べる機会が増えたらうれしいです。自分の住む地域のコーディネーターを知るところから始めるのも大切かもしれませんね。



地域コーディネーター 和田 祐樹さん



特集2 次の100年を拓く

教育の コンパス “羅針盤”

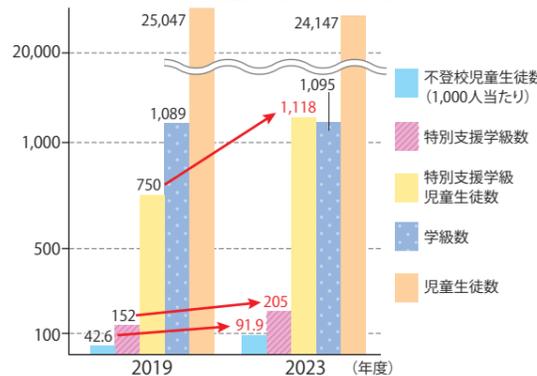
令和7年4月から、本市の新たな教育振興基本計画がスタートします。

時代の変化とともに学ぶ環境が変わる中で、忘れてはならない教育の本質とは何でしょうか。本計画は、一人ひとりが幸せを実感できる「学び」の方向を示すコンパスとして、本市の教育を支えます。

教育委員会総務課 ☎924-2421



5年前との学級数・児童生徒数などの比較(2019-2023)



本市の児童生徒数や学級数は減少傾向にあり、小規模学校が増えています。その一方で、不登校の児童生徒や特別支援学級の数は増加傾向にあり、一人ひとりに合わせた学びを支援することがこれまで以上に大切になっています。また、少子高齢化が進む中、生成AIなどの技術を活用し、雇用環境の変化など社会の大きな変化への対応も求められています。こうした中で、本市の第4期教育振興基本計画が令和7年度から

新スタート! 教育振興基本計画

始まりです。この計画は、郡山の教育の方向とその実現に向けた取り組みを示す、いわば教育のコンパス。目まぐるしく変化する社会環境の中で、計画期間の5年間に力を入れて取り組むべき課題を明らかにし、本市の強みをさらに伸ばしていくため、初めて3つの重点分野を設定しました。全ての世代で性別や国籍を問わず、一人ひとりの「ウェルビーイング(※)」と「学び」を高められるよう取り組みを進めます。



【計画の3つの重点分野】

- ①持続可能な地域の創り手の育成・ESDの推進
キーワード：声と手
- ②誰一人取り残されない学びの推進
キーワード：寄り添う心
- ③新たな課題に即応した環境づくり
キーワード：DX、働き方改革

重点分野 ③ 新たな課題に即応した環境づくり ～社会とともに変化する教育現場の今～

子どもたちのウェルビーイングを高めるためには、先生の働き方改革を加速させる取り組みも必要です。ICTを生かした授業や教育データの利活用など、時代に対応した“学び”のDXをさらに進めます。

教育現場をアップデート 学びのDXと働き方改革！

タブレットの導入や学習支援ツールなどを活用して、個人に合った学びを充実させながら、オンライン授業やICTを生かした新しい学習指導を取り入れます。DXを推進することで、子どもたち一人ひとりに向き合う時間を確保し、より質の高い教育を目指します。

また、校内業務のDXや教育研修のオンライン化、部活動の地域連携・地域移行を図り、働き方改革を進めます。先生が働きがいを感じられる環境づくりを行い、学校全体のウェルビーイングを高めます。



タブレットで各自の学びを共有



大型ディスプレイによる授業



モデル事業として外部指導者が部活動を指導



先生の授業づくりを支援するサービス「classtock」を導入

学校単位での部活動から、地域での活動へと展開する動きが進んでいます。この部活動地域展開のモデル事業として、陸上競技の指導に携わっています。参加する中学生からは、「専門的な知識を持ったコーチから指導を受けられてためになる」といったポジティブな意見が聞こえてきます。また、指導者の参加を希望制にすることで、先生が計画的に休暇を取りやすくなるなど働き方にも変化が生まれてきています。

学校だけでは部活動の継続が困難となっている今、地域の方が自分の知識や指導力を生かしたり、活動資金を援助したりするなど、多様な形で子どもたちの活動の場を守っていくことが必要になってきています。

湖南小中学校 教頭 遊佐 智則先生



ワクワク広がる、学びが未来を切り拓く。

4月から新たにスタートするこの計画は、次の100年を見据えた本市の教育の方向を示す羅針盤です。子どもたちや若者に郡山をもっと好きになってもらえるような教育を進め、自分たちが将来の郡山を創っていくんだと感じられる機会を増やしていきます。

また、こうした「人づくり」が教育の本質ではないでしょうか。人づくりがまちづくりにつながり、さらには社会全体のウェルビーイングの向上につながります。社会や環境が移り変わる中でも、一人ひとりの「学びたい」という思いを大切に、多様なニーズに応じた教育の充実を図っていきます。

郡山市教育委員会 教育長 小野 義明



重点分野 ② 誰一人取り残されない学びの推進 ～立ち止まってもいい。ゆっくり、焦らず～

さまざまな理由で学校に行けなかったり、個性に応じた支援が必要だったり、そして海外から来ていたり、一人ひとりの背景や環境はさまざま。きめ細やかで手厚いサポートを行い、全ての子どもたちが、「学ぶって楽しい」を実感できる取り組みを進めます。

一歩一歩あなたのペースで “学びたい”をサポートします

学校に行けない子どもたちに対しては、全市立学校にスクールカウンセラーを配置し、気軽に相談ができる環境づくりを進めます。一部の学校に設置している校内教育支援センター(サポートルームなど)やふれあい学級(※右記参照)においても、保護者と一緒に子どもたちの成長の過程を見守るなど、支援体制を強化していきます。

また、海外から来た子どもたちへのサポートを充実させ、学校だけでなく市全体で、文化の違いを理解し合える機会をつくり出します。



▶サポートルーム

自分の教室に入ること
に不安を抱えている子どもたちが、自分のペースで学習・生活できる落ち着いた環境を校内に設け、一人ひとりに寄り添った居場所づくりを進めています。



▶ふれあい学級(ニコニコこども館5階)

学校に行けない子どもたちの居場所として、子どもたちからの相談や学習の支援、体験活動などさまざまな支援を充実させます。

☎同学級 ☎933—8081



Interview

世界から来た子どもたちの声



日本に来て1年。まだ日本語は苦手だけど、相談員さんのおかげで学校が楽しいです！友達と遊ぶのも大好き！

大槻小学校3年
ワットワラットさん(タイ出身)

最初は言葉が全然分からなくて、友達ができるか不安だったけど、たくさんの友達ができました！もう日本にも慣れたよ！



行健第二小学校6年
アブドゥラさん(パキスタン出身)



1年生の時は、タブレットの翻訳機能を使ってあいさつしかできなかったけど、今はもう大丈夫！授業の内容もだいたい分かるし、学校が楽しいよ！

芳山小学校2年
ヴァシリさん(ロシア出身)

サポートする先生の声

子どもも大人も「自分たち」と違うと線を引くのではなく、お互いに自分から歩み寄る意識を持つことが大切です。違いを理解し合うことで、お互いの距離を縮めることにつながると思います。

私が、子どもたちと接する際に大切にしていることは、根気強く向き合うこと。慣れない勉強に「疲れた」「今やりたくない」と投げ出してしまったりすることもあります。そんな時は、「これだけ一緒にやってみよう」と少しでも達成感が持てるような声掛けを意識しています。

相談員として、子どもたちをサポートできる時間は少ないと感じています。今以上に支援を必要とする子どもたちに手厚いサポートができる時間が取れたらいいですね。



外国人児童生徒等教育相談員(ウルドゥー語)
藤岡 裕子さん